

難波宮



しくみ

■ 白嶽山頂 577.66km - 難波宮大極殿跡 - 浮嶋稲荷神社 577.66km

■ 嶋大國魂御子神社 560.21km - 難波宮 - 大朝日岳 560.21km

左極

白嶽山頂

石英斑岩の双耳峰が特徴的な対馬のシンボリックな山。山頂から360度のパノラマを楽しめる。巨石群あり。麓に白嶽神社。祭神/大山祇神、多久頭魂神 摂社/五王神社 素盞鳴尊 若宮神社 五十猛命 『対馬神社誌』に「神籬磐境の上古制の社にして津島七岳の宗社として深林鬱蒼峻岳秀麗の地なり。古来蛇淵を中の御所と称し緑原を遙拝所となし茲に神殿を設けたり。国王の崇敬ありし神社にて洲藻の総鎮守神なり。白嶽には洞窟があり、奥に祠がある。」

長崎県対馬市美津島町洲藻



嶋大國魂御子神社

式内社 祭神/大己貴尊（素盞鳴尊の御子） 創祀年代は不詳。以前は日吉山王権現と称していたが、明治初年に改名。また、『対州神社誌』には、「日吉山王権現 正躰薬師木像高サ壹尺」と記されている。鶴紋。延喜式神名帳には今から約、壱千百年前の貞観十二年に従五位上の社格を受けたという記録。

長崎県対馬市上県町佐須奈乙



中道角

難波宮大極殿跡

乙巳の変ののち、645年に孝徳天皇は難波（難波長柄豊崎宮）に遷都し、宮殿は652年に完成した。元号の始まりである大化の改新とよばれる革新政治はこの宮でおこなわれた。この宮は建物がすべて掘立柱建物から成り、草葺屋根であった。『日本書紀』には「その宮殿の状、彈（ことごとくに）諭（い）ふべからず」と記されており、ことばでは言い尽くせないほどの偉容をほこる宮殿であった。孝徳天皇を残し飛鳥（現在の奈良県）に戻っていた皇祖母尊（皇極天皇）は、天皇が没した後、655年1月に飛鳥板蓋宮で再び即位（重祚）し斉明天皇となった。683年（天武12年）には天武天皇が複都制の詔により、飛鳥とともに難波を都としたが、686年（朱鳥元）正月に難波の宮室が全焼してしまった。

大阪府中央区法円坂1丁目-6



右極

大沼浮嶋稲荷神社

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮嶋稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。別当大行院系図に730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述がある。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。

山形県西村山郡朝日町大沼



大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を受けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。

山形県西村山郡朝日町。

備考 三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）

ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられるのでは。

備考

はじめて、大沼浮島の出島ではなく浮島稲荷神社とつながった。対馬の白嶽山頂の磐座にぴったりつながる。天武天皇が難波を都にしたのが683年。役の小角が大沼に来たのが681年なので、歴史ともつながると思ったが、系図に730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述が残っている。浮島稲荷神社の場所にはまだなにもなかったことになる。なにか別の祭祀場があったのだろうか。偶然とも考えたが大朝日岳も対馬の島大國魂御子神社とつながっているので、このしくみは有りだと思ふ。